

第2学年 英語科 学習指導案

日 時 2025 年 9 月 3 日 (水)
第 5 校時 13:30～14:20
対 象 第 2 学年 A, B 組 79 名
会 場 2 年 B 組 教 室

1 単元名

Unit 4 Tour in Singapore Part 1 どこに行きたい?……「Here We Go!」(光村図書)

2 単元の目標

- ・ グルメの紹介記事から、必要な情報を読み取ることができる。
- ・ 町の名物の魅力について、There is ～.、「S+V+O+O」、不定詞の形容詞的用法を用いて伝え合うことができる。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①〈知識〉There is ～.、「S+V+O+O」、不定詞の形容詞的用法の文の意味・形・使い方を理解している。 ②〈技能〉There is ～.、「S+V+O+O」、不定詞の形容詞的用法などについての理解をもとに、シンガポール・グルメの紹介サイトの内容を読み取ったり、町の名物について説明したりする技能を身に付けている。	①Tina と David の希望に合う昼食をとる場所を探すために、シンガポール・グルメの紹介記事から、必要な情報を読み取っている。 ②町の名物の魅力が他の国や地域の人に伝わるように、伝えたい情報を整理して、自分が紹介したい名物について詳しく説明している。	①Tina と David の希望に合う昼食をとる場所を探すために、シンガポール・グルメの紹介記事から、必要な情報を読み取ろうとしている。 ②町の名物の魅力が他の国や地域の人に伝わるように、伝えたい情報を整理して、自分が紹介したい名物について詳しく説明しようとしている。

4 単元指導計画(全9時間扱い)

時	目標(ターゲットセンテンス)	学習内容・学習活動	評価
1	・単元の目標を確認し、自己目標を設定する。 ・ストーリー全体を通して聞き、ピクチャーカードを場面順に並べ替える。	ストーリーのおおまかな内容をつかむ。 ・単元の題材に関する自分のことを伝え合い(About You)、ストーリーを予想する。 ・映像を見て、ストーリーのおおまかな内容を確認する。	ウー①【ワークシート】
2 本 時	・There is ～. / There are ～. を用いた表現を聞いたり使ったりして、行きたい場所と、そこにあるものについて理解し、	目的や場面に沿って There is ～. を使う練習をする。 ・登場人物の会話から、登場人物が明日行きたい場所とその理	イー①【観察】 ウー①【ワークシート】

	簡単に伝えることができる。	由を聞き取る。 ・自分が次の休みに行きたい場所とそこにあるものを書く。	
3		本文の内容を捉え、文脈の中で There is ～. の肯定文・疑問文・否定文の意味・形・使い方を理解する。 ・Q&A などを通して、本文の詳細を確かめる。 ・語句や表現、There is ～. の意味・形・使い方を確かめる。 ・本文を聞いたり音読したりして、発音と綴りを一致させる。 ・ペアになり、次の休みに行きたい場所とそこにあるものを伝え合う。	アー①【観察、ワークシート】
4	・S+V+O+O の文を用いた会話を聞いて、「誰に何を買うのか」を理解し、自分が買いたいお土産について簡単に伝えることができる。	目的や場面に沿って「S+V+O+O」を使う練習をする。 ・登場人物のお土産屋での会話から、登場人物が誰に何を買うのかを聞き取る。 ・ペアになり、自分なら誰にどんなお土産を買いたいかを伝え合う。 ・自分が誰にどんなお土産を買いたいかを書く。	イー②【観察、ワークシート】
5		本文の内容を捉え、文脈の中で「S+V+O+O」の意味・形・使い方を理解する。 ・Q&A などを通して、本文の詳細を確かめる。 ・語句や表現、「S+V+O+O」の意味・形・使い方を確かめる。 ・本文を聞いたり音読したりして、発音と綴りを一致させる。 聞く／読む活動の際、Q の答えを探しながら読んでみるよう促すなど、Goal の「グルメの紹介記事から、必要な情報を読み取る」活動につながる指導を行う。	アー②【ワークシート】
6	・不定詞（形容詞的用法）の意味・形・使い方を理解し、自分の町	目的や場面に沿って不定詞（形容詞的用法）を使う練習をする。	イー①【観察】

	<p>の魅力を伝える表現として使うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール市内の 3 か所での登場人物の会話を聞いて、話題を捉える。 ・ペアになり、自分の町のどんな場所や名物を紹介するかについて、意見を伝え合う。 ・自分の町の好きな場所や名物など紹介したいことを書く。 <p>話す活動の際、まず何を紹介するかをおおまかに言って、詳しい説明を足していくとよいことなど、Goal の「町の名物の魅力が伝わるように、詳しく説明する」活動につながる指導を行う。</p>	
7		<p>本文の内容を捉え、文脈の中で不定詞〈形容詞的用法〉の意味・形・使い方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q&A などを通して、本文の詳細を確かめる。 ・語句や表現、不定詞〈形容詞的用法〉の意味・形・使い方を確かめる。 ・本文を聞いたり音読したりして、発音と綴りを一致させる。 	アー①【ペーパーテスト】
8	<ul style="list-style-type: none"> ・グルメの紹介記事から、必要な情報を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の目的や場面、状況などを確かめる。 ・シンガポール・グルメの紹介記事を読み、Tina と David のどちらの希望にも合う一皿を選ぶ。 ・Q&A などを通して、記事の詳細や新出語句などを確かめる。 <p>必要な情報を読み取ることができない生徒には、紙面上の TIP に注目させ、第 4 時 (Part 2 の本文) で学んだ読み方を思い出したりするよう指導する。</p>	アー②【ワークシート】
9	<ul style="list-style-type: none"> ・町の名物の魅力が伝わるように、詳しく説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Tina に話すつもりで、自分の町のおすすめの一皿を友達に説明する。 ・伝える内容や説明の仕方を見直し、他の友達にもう一度説明 	イー②【パフォーマンス】 ウー②【パフォーマンス】

		<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況に応じて、Extra のシンガポールに行ったら食べてみたいものを、友達と伝え合う活動に取り組む。 ・単元の学習全体を振り返り、自己評価をする。 <p>中間振り返りの際、「どんな一皿なのか、それを知らない人にも伝わるか」、「食べたいと思ってもらえるような説明ができているか」の観点で、発表の内容や表現を見直すよう促す。その際、Part の本文や Goal の Read などを読んだことを参考にさせる。</p>	
--	--	---	--

5 生徒が主体的に学び続けるための工夫（協働的な学び）




- ・ アクティビティーを取り入れ、生徒が自発的に参加する流れを作る。
生徒同士で役割分担をさせ、係を決める。英語が得意な生徒だけが先導するのを防ぐ。
- ・ 到達度に合わせて個人で問題を解く量を調節する。
自分で課題を設定させ、取り組ませる。
例) 身近なものを3つ選び、不定詞の形容詞的用法で説明する。
教科書の文を変えて、オリジナルの文を作成する。



6 本時の指導（全9時間中の2時間目）

（1）本時の目標

- ・ There is ～. / There are ～. を用いた表現を聞いたり使ったりして、行きたい場所と、そこにあるものについて理解し、簡単に伝えることができる。

（2）本時の展開

	○学習活動 ◎主体的に学び続けるための視点	□指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>○帯活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Song transcription ・ Past tense ・ New words 	<p>□意味を理解し、正しい発音やリズムで音読や発音をしているかを見取る。</p>

	<p>○Review</p> <p>There is a ～. / There are ～s. の基本文を復習</p> <p>○本文内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容を捉え、文脈の中で There is ～. の肯定文・疑問文・否定文の意味・形・使い方を理解する。 ・Q&A などを通して、本文の詳細な内容を確認める。 ・語句や表現、There is ～. の意味・形・使い方を確かめる。 ・本文を聞いたり音読したりして、発音と綴りを一致させる。 	<p>□写真やイラストを用い、「1 つある／複数ある」が目で分かる提示を行い、is / are の使い分けを意識させる。</p> <p>□基本文を、プロジェクタで映しながら、説明する。</p> <p>□There is ～. の形を確認する際も、「誰が・どこで・何について話しているか」を常に意識させ、文脈の中で意味を捉えさせる。</p>
<p>展開 (40分)</p>	<p>◎Activity </p> <p>次の休みにどこに行きたいかペアになり伝え合う。</p> <p>S1: そこになにがあるかを There is a ～. / There are ～s. を用いる。</p> <p>S2: 伝えられたことに対して英語で質問を返す。</p> <p>S1: S2 の質問について答えられればその場で答える。調べる必要があればタブレット端末を使い調べた後、答える。</p> <p>◎協働的な学びを取り入れた学習活動 </p> <p>○ペアワークに対しての自分の感想を述べる。</p> <p>○ペアワークに対して課題を自分で考え、疑問をもつことで継続して学習を進められるようにする。</p>	<p>◆イー①【観察】</p> <p>□英語での対話が苦手な生徒もいるため、課題を準備する時間を設ける。</p> <p>机間指導を行い、困っている生徒にヒントを与える。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>○個人で本時の振り返りをワークシートに書く。</p>	<p>◆ウー①【ワークシート】</p>